

令和5年度 大田区基本構想審議会
第1回専門部会（産業・環境）議事録

日時	令和5年7月31日(月)16時から18時									
場所	大田区民ホール・アプリコ展示室									
委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">○ 奥真美</td> <td style="text-align: center;">○ 下村芳樹</td> <td style="text-align: center;">○ 深尾定男</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○ 広瀬安宏</td> <td style="text-align: center;">○ 北見公秀</td> <td style="text-align: center;">○ 中村知恵子</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○ 湯本良太郎</td> <td style="text-align: center;">○ 犬伏秀一</td> <td style="text-align: center;">○ おぎの稔</td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">※○:出席、欠:欠席</p>	○ 奥真美	○ 下村芳樹	○ 深尾定男	○ 広瀬安宏	○ 北見公秀	○ 中村知恵子	○ 湯本良太郎	○ 犬伏秀一	○ おぎの稔
○ 奥真美	○ 下村芳樹	○ 深尾定男								
○ 広瀬安宏	○ 北見公秀	○ 中村知恵子								
○ 湯本良太郎	○ 犬伏秀一	○ おぎの稔								
傍聴者	3名									

議事日程	<p>開会・企画経営部長挨拶</p> <p>議題</p> <p>(1)現状と課題について (伸ばすべき強みや特に対応が必要な課題等)</p> <p>(2)重要となる施策やその先の将来像について</p> <p>その他(事務連絡)・閉会</p>
資料	<p>資料1 事務局資料①</p> <p>資料2 事務局資料②</p> <p>資料3 今後の予定</p> <p>参考資料1 大田区データブック</p> <p>参考資料2 おおた未来プラン10年「目指す姿」の達成度評価報告</p> <p>参考資料3 新おおた重点プログラム</p> <p>参考資料4 大田区基本構想(平成20年10月)</p>

開会・企画経営部長挨拶

◎齋藤部長

定刻となりましたので只今より大田区基本構想審議会第1回専門部会産業・環境の部門を開催させていただきます。委員の皆様におかれましてはご多忙の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日は事務局として私大田区企画経営部長の齋藤が全体進行、議題部分を奥先生に努めていただくということでございます。

本日の会議はリアルとオンラインのハイブリッド形式で開催しておりまして部会長の奥先生にはオンラインでご参加をいただいております。奥先生よろしくお願ひします。ペーパーレスの観点から事務局の資料等は机上には配布せず、スクリーンないしモニターに投影する形で進めさせていただきますので、資料をご確認いただく際は、お手元のタブレット端末をご活用いただき、操作等にわからないところや不備が生じた際は、近くの事務局職員にお声がけいただきたいと思ひます。本日の会議は会議の様子を撮影録音させていただき後日議事録を公開するとともに、区のYouTubeチャンネルで動画として公開をさせていただきますので予めご了承ください。

先週 25 日火曜日の第1回審議会では、構想の目標年次や構成についてご検討をいただきまして、期間については 2040 年頃ないしは 20 年後、構成については現在の個別目標よりももう少し抽象的なレベルで取りまとめていきたいという意見が多くございました。本日の専門部会でもそれを前提にご検討を進めていただきたいと思っております。

本日は第1回の産業・環境専門部会ということになりますけれども、産業のまち、大田区というのは、区の最も大きな特徴の一つとも言えますので、この分野で 10 年 20 年後にどのような姿を目指していくのかという検討は構想を固めていく上でも非常に重要な要素となります。

連日猛暑が続いております。先日の世界気象機関(WMO)と EU の気象情報機関によりますと、人類の活動による気候変動が引き起こす異常な高温と、大規模な山火事の影響で、2023 年 7 月は観測史上最も暑い月になる見通しだと言われております。今モニターに映させていただいておりますが、国連の事務総長は、現在の地球の気象は地球温暖化ではなく「地球沸騰化」であると警鐘を鳴らしてありまして、地球に優しい・環境に優しいという各国の取組について、まだまだ足りないのではないかとこの厳しいご指摘もございます。このような状況を踏まえて、大田区として本気で取り組むことをお示しするよい機会だと思ひますので、この基本構想の審議を通じて示していきたいと考えてございます。

今回の部会につきましては、構想を見据えた上での区の伸ばすべき強みや、対応が必要な課題及び重要となる施策、その先の将来像についてご検討いただきます。第1回の審議会で現構想の評価・振り返りが重要といったご意見をいただきましたので、事務局資料では振り返りについてご説明をさせていただきます。専門部会は全部で3つございますけれども、本日が全体を通じて最初の専門部会ということで、皆様の様々なご意見をいただけること、私自身非常にご期待を申し上げております。

魅力的な大田区基本構想の策定に向けてぜひ忌憚のないご意見をいただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

ここからの進行は部会長の奥先生、よろしくお願ひします。

◎奥部会長

それではここから進行を務めさせていただきます。本日はオンラインで失礼いたします。では本専門部会を進めていくにあたりまして、専門部会の成立について事務局から報告をお願いいたします。

◎野村課長

本日の専門部会の成立につきまして報告いたします。専門部会の成立要件につきましては大田区基本構想審議会条例施行規則第3条第5項において、部会は部員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないと規定されています。本日の出席状況でございますが、委員9名のうち深尾委員を除く8名が出席しており、定足数を満たしているため、本会議が成立していることを報告いたします。以上です。

◎奥部会長

ありがとうございます。ただいまの報告により専門部会が成立しているということについて確認をいたしました。では早速議題に移ってまいります。「(1)現状と課題について(伸ばすべき強みや特に対応が必要な課題等)」について事務局から説明をお願いいたします。

議題(1) 現状と課題について(伸ばすべき強みや特に対応が必要な課題等)

◎野村課長

企画調整担当課長野村と申します。議題1に関する資料について説明させていただきます。資料1をご覧ください。

最初に本部会本専門部会が所管する行政分野や専門部会の流れについて説明させていただきますので資料の3ページをご覧ください。本部会は産業・環境部会ということで、データブックの分野では人口/国際都市・多文化共生/産業・経済/観光・文化を主な対象分野としております。その他の2つの部会の対象分野は、資料に記載のとおりとなっておりますので、検討や議論の際は本部会の所管分野を中心に行っていただきますようお願いいたします。なお、全体の審議会では所属の専門部会の分野にかかわらず自由にご意見を述べていただくことが可能となっております。

続いて2回の専門部会の流れについて説明いたしますので、資料の4ページをご覧ください。まず1回目の本日の部会では、議題1として基本構想で描く2040年頃の将来像を見据えた場合に、特に伸ばすべき強みや、対応が必要な課題について意見交換を行っていただきます。その後、議題2として議題1で出た強みを伸ばし課題を解決していくために重要となる施策は何か、その施策を進めることでどのような将来の姿が実現できるのかという点について、意見交換を行っていただきます。また8月30日に予定されております2回目の部会では、前半パートで1回目の部会の結果や区民意見募集の結果を踏まえて、産業・環境分野のめざすべき姿について意見交換を行っていただきます。後半パートではこれまでの議論の結果を踏まえ、事務局が用意するフォーマットに落とし込むような形で、第2回基本構想審議会に上げるために本専門部会の意見を取りまとめていただきます。なお、本日の議題2でも区民アンケート結果の速報を報告させていただきます。

ますが、本日はあくまで一部の結果の速報であり、自由記述意見も含めた詳細なアンケート結果は2回目の部会でお示しさせていただきます。

改めて資料5ページ以降で議題1に関する資料について説明させていただきます。第1回基本構想審議会でも説明させていただきましたが、区では新たな基本構想の策定にあたり現構想策定期間の15年間の変化や、区の特徴などをまとめたデータブックを作成いたしました。本日の専門部会でもお手元に貸し出し用として配布しておりますデータブックをぜひご活用いただきたいのですが、データブックには産業・環境専門部会とは直接関係のない分野も記載されております。そこでデータブックのうち特に産業・環境部会に関係の深い分野や記載をまとめたものが本日の事務局資料1となっております。

資料5ページでは、データブックのうち産業・環境部会と関わりの深いデータブックのページを章ごとに一覧で示しております。この一覧表の順に沿って本日の事務局資料の6～21ページでは大田区のこれまでをまとめたデータブック2章の内容を、事務局資料の22～30ページでは大田区のこれからをまとめたデータブック3章の内容を、事務局資料31～35ページでは区の特徴・強み、現状・課題等をまとめたデータブック4章の内容を記載しております。

いくつか重要なデータなどピックアップして説明させていただきます。

事務局資料6ページ(データブック8ページ)には人口分野のデータを記載しております。総論部分で、総人口は増加しているものの少子高齢化が進んでいるという事実に言及しております。この点は皆さんも周知の事実であり、大田区だけの問題ではありませんが、人口に関してやや深刻な区の課題もございます。事務局資料7ページ(データブック9ページ)に記載しておりますが、スライドに映っている事務局資料7ページ、こちらの左下のグラフをご覧ください。このグラフは5歳階級の区の転出入数を示したグラフなのですが、20～24歳に関しては純移動数の数値が高く、この青い棒が純移動数で、転入超過だと上に伸び、転出超過だと下に伸びる形になっています。20～24歳に関しましては、上の方に青が伸びておりますので大きく転入超過ということで、入ってきている数が多いということになるのですが、一方で、転出が多いところを見ますと、0～4歳、30～34歳、35～39歳で多くなってございます。この結果から小学校入学前の子どもを持つ子育て世帯が転出しているという傾向が伺えます。もちろん家賃の高い23区ではこの傾向は仕方がないことなのかもしれませんが、同じページのすぐ右隣のグラフを見ていただきますと、23区の自治体について0～4歳の転出超過が多い順に左からグラフが並べられておりますが、大田区は青が大きく下に伸びておりまして、23区でワーストとなっております。人口は産業・環境だけに関連する分野ではありませんが、人は都市の活力の源であり、また将来の大田区を担う子どもたちが転出している状況は、何としても改善していかなければなりませんので、この問題意識は3つの専門部会に共通で持っていたいただきたいと思いますと考えております。

その他の分野をいくつか紹介させていただきますと、例えば事務局資料9ページ(データブック33ページ)の「国際都市・多文化共生」では、左下のグラフを見ると「大田区では、日本人と外国人が互いに認め合い、暮らしている」と感じている区民や外国人の割合は増加傾向にあり、多文化共生意識はこの数年間で向上しているという事実が伺えます。

また事務局資料の10ページ(データブック34ページ)の「産業・経済」は、産業に大きく関わる部分です。上のグラフが大田区の製造業の事業所数、下が商店街数ですが、いずれも23区1位

であり、区の産業の大きな特徴であると言えます。

産業・経済の次のページ、事務局資料 11 ページ(データブック 35 ページ)では、左上のグラフで工場数や従業者数は減少傾向にあることが示されておりまして、同じページの右下のグラフでは、商店街における後継者不足が深刻化しているという問題が示されておりますので、これらの問題にどう対応し、どのような将来像を目指していくかという検討が必要になるかと思えます。

続いて事務局資料 12 ページ(データブック 36 ページ)の観光・文化では、観光客数はコロナで一時的に減少したものの回復しつつあるというデータが示されています。コロナはいまだ完全に終息していませんが、オリンピックという起爆剤となる祭典も終了した今、改めて区として観光施策をどのように考えていくかという検討が求められるかと思えます。

文化につきましては次の事務局資料 13 ページ(データブック 37 ページ)で2つほどグラフを示しております。データの数を決して多くありませんので、後ほど4章の課題部分をご覧ください。文化のまちとしてのイメージ醸成や情報発信などに課題があることなどが記載されてございます。

続きまして事務局資料 14 ページ(データブック 38 ページ)の環境分野のデータをご覧ください。大田区のCO₂排出量は23区で2番目に多い状況となっておりますので、東京やひいては日本の温暖化問題の改善のためにも、大田区が率先して温室効果ガスの削減に取り組んでいく必要があります。

また 15 ページ(データブック 39 ページ)では、左上のグラフで年間猛暑日日数が増加していることや、その他には同じページの右上のグラフで区内のゴミの量は減少傾向にあり、一方、リサイクル率は上昇しているといったポジティブな状況を示しているものもあります。

資料のページを少し飛ばさせていただきますが、事務局資料 25 ページ(データブック3章の56 ページ)、将来推計の部分になりますが、環境に関連しまして温暖化対策の度合いに応じ、シナリオ別に将来の気温や猛暑日、それから右のページでは大雨の発生回数などを示しております。

環境についてはこのまま対策を打たないと将来どうなってしまうかという視点も非常に重要なため、将来予測も踏まえた上で大田区はどのような将来像を目指し、そのために何をしていくのかという検討ができればと考えております。

資料のページを少し戻させていただきますが、資料の 18 ページからの4ページ(データブック 43～46 ページ)、2章の最後の部分では 23 区で唯一空港があるという区の特徴や、ホットピックという形で羽田イノベーションシティ、新空港線、SDGs 未来都市といった区の実績などを紹介しておりますので、将来像検討の際、参考にしていただければと思います。

全てのページの詳細な説明は省略させていただきますが、データブックでは2章3章4章という形で区のこれまでの変化や将来予測、特徴や課題などをまとめております。

本日の意見交換でも必要に応じて参考にしていただければと思いますが、ここに掲載されているデータは大田区のごく一部のデータにすぎません。ご意見をいただく際にはデータブックに掲載のない項目に関するものでも全く問題ございません。本日は大田区の 2040 年頃の将来像を描くにあたって重要となる、区の特徴や強み、課題は何かというテーマについて、それぞれの立場や知見などに基づき、自由にご意見をいただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。事務局からの説明は以上です。

◎奥部会長

ご説明ありがとうございます。今、データブックの中でも産業・環境分野に関連が深いというところにつきまして事務局からご説明がございました。

現状と課題について皆様がお感じになられている点、大田区はここを伸ばすべきだという強みですとか、特にこういった対応が今後必要なのではないと思われる課題等につきまして、ここからは自由に出していただければと思いますけれども。

◎野村課長

奥先生、最後のところで画面が一度フリーズしてしましまして音声聞こえなかったのもう一度最後、意見を流す手前の部分からご説明をいただいてもよろしいでしょうか。

◎奥部会長

申し訳ございません。ネットワークが不安定なのかもしれません。

本日は、データブックに関連してでももちろんいいですし、追加でこういった情報やデータがほしい等ございましたら、合わせて自由なご意見とともにいただければと思います。それではどなたからでもご発言いただければと思います。事務局の方で、どなたか挙手されている方がいましたら、教えていただければ指名させていただきます。いかがですか。

◎犬伏委員

区議会議員の犬伏と申します。よろしく申し上げます。

全般的な感想なのですが、大田区の持っている産業の大きな力と言いますか、これはやはりものづくりだろうと思います。

ただ、ものづくりの中でも、大田区はアッセンブリメーカー、部品をつくる事業者、ものづくりがとて多いなと思います。東大阪も同じようにものづくりが非常に活性化しておりますけれど、東大阪はプロダクトメーカー、つまり製品を中小企業でおつくりになっているケースが多い。どうしてもアッセンブリメーカーになりますと、1個あたり10円でつくり2円の利益を得るといような非常に下請け的な業態が多くて、単価を下げさせられているのですね。苦しい経営をされている企業が多いように感じます。

反面、昨今新しく起業された会社においては、そういうアッセンブリの中でも特殊な技術を持っている、そういうものを武器にして大田区内で伸びていらっしゃる会社もあるという、二面性がある。まあまあやっているという会社よりも、非常に伸びている会社と相変わらず下請けに徹しててご苦労されている会社がいらっしゃる。

そしてまた、技術を持っていらっしゃる会社にしても、1人の匠が会社を支えている、商店街のデータにもあるように後継者がいない、後継者が不足しているという問題に直面をされていて、経営者の皆さんも「もうこどもたちにはこんな辛い仕事をさせたくないから、いい大学に行かせて大企業か公務員に就職させたい」という思いが残念ながらあるのだろうなと思っています。

そんな中で私は京浜島にあるメッキ協同組合をお尋ねしたのですが、そこで26社の協同

組合があって、その組合長さんに伺ったら、我々の組合には後継者不足は一切ないのだと。親父がいつも嬉しそうにメッキ工場を運営している姿を見て、こどもたちはみんな後継者になると。一社も欠けていないという力強い言葉を伺って、社長の姿は後継者不足を解決するのだなと非常に感動したことがあります。

次に産業政策について、大田区の産業政策は残念ながら面になっていないなど感じています。六郷図書館の跡地に六郷 BASE という創業支援施設をつくりました。長い間蒲田 Pio に産業プラザがあります。今回羽田イノベーションシティの中に、HANEDA×Pio をつくりました。ここには新産業支援施設というのがあります。羽田旭にも同じような施設があります。ではこれらが面としてつながって、大田区の創業支援であるとか、産業支援につながっているかという、それぞれの点では何かやっているのですけれど、全体として大田区の力を出しているかという、途切れ途切れだなと。この利用も課題かなと思っております。

最後に、私は旅行業も 26 年ぐらいやっていたので、観光について申し上げますけれど、大田区は西野区長の時代に、観光は行政がやるものではないということで一切手を出さなかったのです。松原区長になって急に、観光が前面に出てきて観光課をつくり、部をつくる。さらには、私が閑古鳥情報センターとあだ名を付けた観光情報センターというような無駄遣いの施設をつくったりして、一生懸命観光に力を入れているのですけれど、残念ながら大田区には一般的な観光と呼ばれる観光資源がないのは、大手旅行会社の調査でも明らかであります。

やるべきはやはり産業観光、業界ではテクニカルヴィジット、TV と呼んでいますけれども、大田区のものづくりの会社を回る観光であるとか、それこそ羽田イノベーションシティで研修をする観光だとか、そういうところに特化すべきである。しかし、いわゆる従前の観光、お寺を見たり観光地を見たりするイメージで観光政策が進められていくのは、いささか残念だなと思います。

最後に国際化についてであります。確かに外国人が大変増えておりますけれども、その中でもある国の人々が愚連隊のようなグループをつくって、殺人事件等を起こして、そのグループ名には頭に蒲田という名前がついていたということを聞きました。必ず国際化、共生しているかというところでもないし、先日の川崎市におけるクルド人の大暴動事件等を見ても、秩序ある共生というのはどうしていけばいいのか、何でもかんでも外国人いらっやいということがどういう結果を招くのか、EU 諸国の移民政策を推進した国を見ても明らかであります。この辺は注意をして考えていかなければいけない。以上ザクッとですが所感を述べさせていただきました。どうもありがとうございました。

◎奥部会長

ありがとうございました。大きく3つの課題について、ご意見を頂戴しました。特に事務局から何かデータがほしいとか、何か確認したいということではございませんね。

◎犬伏委員

大丈夫です。

◎奥部会長

わかりました、ありがとうございます。他の委員の方はいかがですか。

◎湯本委員

区議会の湯本と申します、よろしく願いいたします。まず知りたいのは製造業のまちという歴史的な沿革が象徴しているのですが、大田区の中の産業構造でいろいろな業種があると思います。サービスや交流もそうだと思いますが、その割合を示された数字、データみたいなものというのは提出できるのでしょうか。

◎奥部会長

いかがでしょうか、事務局、お願いします。

◎齋藤部長

産業経済部が来ていますのでお答えさせていただきます。

◎大木産業経済部長

産業経済部の大木と申します。様々な業種の法整備については、最新の経済センサスの数字が出たばかりですので、今それについては分析中になります。

今日は手元には持っていないのですが、平成 28 年の経済センサスをこれまでベースにしていたのですが、最新版が出ましたので、大田区の産業経済部で現在取り組んでいます。産業振興ビジョンの策定には、その最新の数字を反映させながらつくっていきたいというところで、今現在分析中でございます。

◎湯本委員

ありがとうございます。引き続きよろしいですか。

◎奥部会長

どうぞ、お願いします。

◎湯本委員

それがないと、話ができないのではないかなど。製造業がすごく盛んだというのはわかるのだけれども、産業活動、経済活動はいろいろと複雑に絡み合っているし、その波及効果が大きければ大きいほどいいはずなのですよね。例えば、うちの実家は建築業ですが、製造業の方から工場の建て替えの相談をいただいているし、製造業と建設業、他の産業も絡んでいると思うし、大田区全体がどういうふうに経済活動をしているのか、まず知っておいた方がいいのではないのかということが一つあります。

そしてもう1点は、これは未来のことについて語る会議だと思って、経済活動の新陳代謝をどう図るかということ、少し考えないといけないのかと思います。そうすると、何年ぐらい企業活動をしている会社がどれぐらいあるとか、経営者の方々の年齢はどれぐらいなのかとか、新規のビジ

ネスはどういう業種でどれぐらいの数で何を始めているのかということも知らない、多分これから先何をしていくべきなのか掘り下げていくことができないのではないかと思います。

一般論としてのデータを示されていると思うのですが、産業について特化した話をするには、情報が足りないと思いますが、いかがでしょうか。

◎奥部会長

いかがでしょうか、お願いします。

◎齋藤部長

データについては今委員におっしゃったようなデータの収集が可能かどうか、所管部局とも相談しますが、新陳代謝と話が委員からございました。あまりにそういった時代の流れに応じて、産業の転換みたいなものもあり得ると思うのですが、我々の基本構想をやるにあたっての考え方として、今までの産業のよさを生かしつつ、新しい産業の対応ということがありまして、いわば匠の技とイノベーションの融合みたいになったということで今申し上げているのですけれども、そういうところも加味しながらやっていきたいと思っていますので、当然新陳代謝は視野に入れつつ、今までのよさも生かしていく。それと同時に、データの収集にできるだけ努めて、どこまで集められるかというのはあるのですけれども、そこは相談したいと思います。よろしくをお願いします。

◎湯本委員

公共インフラを新空港線も含めて整えていますよね。大田区の総合体育館等も10年ぐらい前にできました。公共インフラを何のために整備をするのかといった時に地域生活のクオリティを上げるという側面もあるけれども、産業的な側面で公共インフラを整えるということは、非常に重要な区の行政政策だと思うのです。例えば、スポーツと産業をどう絡めるのかということではもっと大田区総合体育館の活用方法や、体育館のあり方について検討を深掘りしてもいいはずだと思います。

新空港線ができるのは結構ですが、空港線ができて、魅力的な蒲田になったとしても産業ができる場所が蒲田にあるのかと。オフィスの数等がもういっぱい新規産出できるような場所もなければ、当然することもできないだろうし。人口の継続性を考えると、ファミリー世帯の定着が大事である。ファミリー世帯向けの住宅の確保を計画的に公共が進めていくということも大事になってくると思う。新陳代謝と今までのよさは、当たり前のベースなのですが、ここからの未来を語る時にそのような視点だけで絵を描くと、なかなかみんながアクティブ感を持てるような未来の絵が基本構想の中に入っていないのではないかなと懸念しています。以上です。

◎奥部会長

ありがとうございます。他の委員の方いかがですか。

◎下村委員

東京都立大学の下村でございます、よろしいでしょうか。

◎奥部会長

お願いいたします。

◎下村委員

今のフェーズは、追加で必要なデータがあればそれについて提案することが求められていると理解していますので、そこに絞って発言をさせていただきたいと思います。

まず大田区のものづくりに関しては、いわゆる加工、ファブ리케이션、それからシステム化、アセンブリ等、様々な業態の方がいらっしゃると思うのですが、まずはそれぞれの分野毎の異なる状況があると考えます。

例えば加工分野、システム化の分野、旋盤の分野等、その分野に分けた国内の動向と、それを踏まえた大田区の動向の数値を見せていただくと、今後の方向性を考えていく上で少し検討しやすくなるかなと思いました。

同様に商業の分野に関しましても、商業という言い方ではあまりに範囲が広すぎるので、もう少し細目的に国内の動向と大田区の動向についても、可能であれば数値的なデータを見せていただければと思います。

最後に、観光に関して回復という表現がございますが、この意味についてもう少し詳細を教えてくださいたいと思います。いわゆるコロナ前と同じ状況に戻りつつあるという意味での回復なのか、消費額の数値としては回復傾向にあるけれども、実はその内訳は多少変わっているということなのか。この辺りについてもデータをお見せいただければ、今後の検討材料としては有効であると思います。

◎奥部会長

ただいまのデータについてのご要望ですが、いかがですか。

◎野村課長

取得可能なデータについては、所管部と相談の上、先ほどの分野に分けた動向なども取得できるかどうか確認し、できれば第2回部会、もしくはその合間にもお示しさせていただければと思います。回復ですが、それぞれの消費額や、今、資料を映しておりますデータブックの 37 ページでは、例えば左上の折れ線グラフの訪都国内旅行者観光消費額が、一時的に下がったものの、ある程度コロナの前と同水準まで戻ってきているということが読み取れるかと思います。例えば訪都国内旅行者については回復にある、コロナ前まで戻りつつあるという意味で記載しておりますが、一方で、その他外国人等、回復しきっていないものもありますので、全てが回復しているとは限っていないのですが、国内等に限っては回復しているという程度で記載してございます。

◎下村委員

ありがとうございます。観光に関して申し上げた意見の真意ですが、お金の使い方がコロナ前とコロナ後とで果たして同じなのかということをお聞きしたく思いました。

◎野村課長

今、このデータの取りまとめの時点では、1人当たりの観光消費額内訳まで精査しておりませんでしたので、その辺りにつきましても、今区内にそのもののデータがないかと思っておりますので、訪都・訪日から推測することになるかと思いますが、国や都が公表しているデータからそういったものが調べられるか、しっかり確認して第2回までには報告させていただきます。

◎湯本委員

関連でいいですか。

◎野村課長

湯本先生から、関連で発言があるそうです。

◎奥部会長

お願いします。

◎湯本委員

先日、航空業界の方と話をした時に、何千人というレベルで、羽田の近くに住んでくださいと。要は勤務時間などシフトがまちまちで、早朝や深夜ということもあるので、なるべく区内で住んでくださいということを航空業界では社員にアナウンスしていたみたいで、各社それぞれ数千人規模で住んでくれていると。さらに航空業界だけではなく、空港関係の方々もそうなのですよ。コロナ時に不動産の東急の話を聞いて、空室が非常に増えた。航空関係の方がコロナでストップして、ここで住まなくてもいいと、そういう需要が抜けてきたみたいなのところがあって。これは直接的な話にどうつながるかっていうとまちまちなのですけれど、空港が動くと大田区の経済には数千人規模で、納税もしてくれる、消費もしてくれる、さらには不動産等々でも賃貸をしてくれるなど、かなり観光と大田区は、直接的な消費や観光を大田区でするかしないかは別にして、航空業界とはかなり密接な関係にあるということは、興味深い話だと思いました。

◎奥部会長

ありがとうございます。

◎下村委員

大変面白いお話でした。湯本委員にお聞きするのは筋違いかもしれませんが、空港は随分活性化してきていると思うのですが、一旦外に出ていってしまった方々が戻って来られているのでしょうか。

◎湯本委員

一旦出てしまった社員さん等は大幅に戻っています。羽田が国際化をして、新飛行ルートの運

用でフルに国際線・国内線で動いたことは、コロナの間はなかったと思うのですが、ここに来て、多分国内は、かつての飛行ルートを使う時よりも、今が一番空港機能をフルスペックで使っている状況です。国内線が7割8割と言うと、それぐらいは戻ってきているというような。

◎下村委員

ちょっと心配なのは、空港には戻って来られているけれど、大田区には本当に戻って来られているのか気になりました。

◎犬伏委員

まず一つ、私は不動産業を営んでいるものですから、蒲田駅周辺のワンルームマンションは、コロナ前に比べて非常に今空室が目立っております。それはテレワークが盛んになってしまったものですから、こんな交通至便で家賃の高いところになくても地方というか、例えば神奈川や相模原など、家賃の安いところでテレワークをすればいいということで、ワンルームの空き家が目立っています。反面、京急蒲田から空港に向かった空港線沿線のワンルームは空室がほとんどない状態です。つまり空港にお勤めの方が戻ってきている。それから本羽田あたりの土地が出るとすぐ売れます。それは何かというと、空港関連会社の寮の需要がすごい。そういう意味では先ほど言われたように航空関係の方が大田区に戻ってきて住んでくれているというのはありますし、糀谷あたりではCAさんがよく飲みに来る居酒屋というのは、現在大変流行り出してきました。

それからもう一つ、羽田空港に住友不動産はこの間、1,500人規模のホテルを開業しました。ある宴会を予約しようと思って聞きましたが、年内空室はありませんと言われてまして、確かに空港の中の需要だけで大田区と言えるかどうかですけれど、それぐらいコロナ以降、空港関係も業態は戻ってきていると痛感しております。

◎下村委員

興味深いお話ありがとうございます。むしろそういうお話をいろいろお聞きしたいなと思いました。

◎湯本委員

あと1点だけいいですか。

◎奥部会長

はい。

◎湯本委員

直接的な観光という意味では、戻ってきたのかと言われるとどの程度か、そもそも観光として大田区が潤っていたのか。犬伏委員の話に立ち返るのですけれども、観光というのか、運輸業というのか、どちらかわかりませんが、観光に関わる航空業界は非常に活況を呈しているという意味での戻ってきているという話ですので、平和島クアハウス、あそこは結構深夜、外国の方が使

われていて、家が近所なのでたまに行くのですけれど、肌感覚でいうとコロナの時は空いていました。今は戻ってきているなど思うので、これで中国との行き来がもっと盛んになったら、かなり熱い状況になるのではないかなという感じは受けます。

◎奥部会長

ありがとうございます。

先ほど湯本委員と下村委員からのご質問等に関連して、観光消費額については2022年までのデータが出てきていて、コロナ前の水準まで回復しているという傾向が見られるということですが、11のスライドの先ほどの製造品出荷額ですとか、あとはCO₂排出量もそうなのですが、2019年までのデータしか今のところ示されておらず、今取りまとめ中だということかと思えますけれども、コロナの影響を受けて、さらに今現在どういう傾向になってきているのかというのは、しっかり確認する必要があると思っております。CO₂排出量も2020年が直近のデータとしてそろそろ出てきていますので、その辺の情報も更新していただきつつ、コロナとコロナ後をどう踏まえて将来を描いていくのかということに気を付けていただく必要があるかなと私も思っております。

ではまだご発言いただいていない中村委員いかがですか。

◎中村委員

ご指名ありがとうございます。区民公募委員の中村です、よろしくお願いします。

私からは今の奥先生が触れられたCO₂排出関連の環境問題について触れたいと思います。

先ほど事務局のご説明で、大田区のCO₂排出量は23区では2番目に多いという説明がありました。私も今回こちらに関わって初めて知ったのですけれども、なかなかこの辺は区民の間でも共有されていないと思います。

環境問題について何かしたい、何かしなければならぬと感じている区民は割と多いのですけれども、それが行動に結びついていないというのは、こちらのアンケートの結果からも読み取れることです。おそらく大方、実際では何をどうすればいいのかわかりづらいということは要因としてあげられると思います。目指していく目標はCO₂削減や温暖化防止で1.5度の温度上昇を防ぐというようなことで、ターゲットははっきりしているのですけれども、ではそこに向けて具体的に今日明日何をすればそこに近づいて、どういう効果が得られるのかという可視化されたわかりやすいイメージはなかなか区民の間に伝わりにくいと思います。こちらに今日所管課がいらしてますか。環境対策課では1人1㎡の緑でどれだけ緑が増えるかという「18色の緑づくり」という事業をやっていると思うのですけれども、個人に落とし込むと分かりやすく明確で行動しやすいと思います。

そういう形で大人も子どもも、今日これをやったらこういう形でこうなる。これだけよくなる、目標に近づくと、というようなことが見えないとなかなか人は受けづらいのかなと感じています。その辺り具体的な行動に結びつくような、働きかけ、施策、啓蒙活動みたいな、うまい形で将来像の中に取り込めていけたらいいなと感じています。私からは以上です。

◎奥部会長

ありがとうございます。温室効果ガスの排出についても、それからこの猛暑日についてもそうですが、環境の分野で今整理していただいておりますが、気候変動の問題は社会経済システム全般に関わる話でもありますし、猛暑日であれば熱中症で死亡する方も年々増えていて、健康や福祉の問題にも関わっていますので、ある意味分野横断的な課題として、整理していただく必要があるのかなと感じるところです。「環境」という中に閉じ込めてしまうのではなくて、全体に通じるようなテーマかなと思っております。

ありがとうございます。いかがでしょうか。まだご発言いただいていない広瀬委員はどうですか。

◎おぎの委員

おぎのと言います、よろしく願いいたします。

私、思うのが、観光が大事だと、今他の委員からお話があったのですが、この項目の中だとコロナ禍で文化芸術活動の鑑賞自体が減少したということがある中で、この大田区の観光来訪者が区の文化に接する機会が少ないという項目がありますけれども、大田区の文化とか伝統芸能みたいなものをピンポイントで見るとは、そもそもあんまりないと思うのです。先ほど犬伏委員も言っていましたけれど、区として観光のものがないという中で、そうなってくると大田区の文化そのものも大事なのですけれども、さっきのものづくりの話もすごく大事なのですが、それを区の文化の歴史等を見てもらうというよりも、これが観光、特に外国からの観光客であれば、日本とか東京そのものよさということになるでしょうし。観光といっても、日本に来て、大田区に来て大田区で遊んで大田区で帰る人はあまりいないと思うのですよ。そうした中で、観光で何をしてもらおうということも、やはりある程度ピンポイントに絞って、空港だとかものづくりだとかという点もあると思いますし。

私は外国人のお話も、今の区の人口の中で 2.7%でしたかね、今後の推計で確か3%だろうというのが人口推計であるのですが、確かにそれだけを見ると、ものすごくたくさん外国人がこれから増えるというわけではないと思うのですよ。

おそらく 23 区の中でも新宿ですとか他の区の方が大きい割合を占める区があると思うのですが、一方で今起きている社会問題等に共通するのですが、外国人とどう接していくか、外国人労働者・住民とどう接していくかは、やはりコミュニティの問題が大きいのではないかなと思うのです。

日本に長く住んでいる外国人の方たちは、自分たちのコミュニティをちゃんとつくって、そこで地域とも溶け合いながら暮らしているだろうというのが思うところです。極端な話、日本に来て、日本人からあだこうだと言われるよりも、やはり同胞であるとか同じ国の人間から、それはおかし、間違っていると注意されたり、話し合ったりということが大きく、そういった人たちに影響があるのではないかなと思います。我々日本人も全然知らない人よりも、知っている地元の先輩だとか地域の人に言われる方がはるかに大きいからです。そういうコミュニティを前提に、外国人とどう接していくかということも見ていく必要があるのではないかなというのと。

大田区の人口が減っていき、特に若い子育て世代が減っていくことを考えると、若い世代の人たちがどうやって暮らしていくか、生きやすいか、過ごしやすいか、特に地元生まれ・地元育ちという人でなければ、都心やいろいろな商業施設、遊興施設に対する利便性だとか、もしくは大きな施

設があつて暮らしやすいとか、そういう要素もやはり大きいと思います。

そういう若い世代に対してはむしろ国際的な問題とか外国の方との接し方も、私は今 30 代後半ですけれども、私の世代、私の上の世代と比べても大分フラットと言いますか、インターネットを通じて、SNS やゲームをやっている、ゲームは対戦ゲームも流行っていますけれど、サーバーは大きい単位の括りでやっているのですよ。そうすると日本とか中国みたいに1カ国ではなくて、例えば日本人がサーバーに入ると、日、韓、中国、台湾、ロシアなど全部一緒なのですよ。その国の言葉で自分のプレイヤーの名前を書いてあり、SNS の名前が書いてある人と会話をしたり、わからなければ何か Google を使って単語を打ち込んで、そこでこういうことを言っているのだと思ひながらコミュニケーションを取っているのですよ。そういう文化もあるというところで、羽田空港もあつて外国に行き来がしやすいところも生かすということ。

あとと思うのが、大田区の発信力はすごく弱いと思うのです。羽田イノベーションシティの Pio の取組とか、商店街とか、SDGs の話もあるのですが、やはり大きな認知をやられていないところがあつて。そういう先天的な取組を一部の中に閉じ込めておくのではなくて、大田区のまち全体に広げていく仕組みをつくり、それを持って大田区の蒲田なのか大森なのか、他にもいくつか、こういうまちは面白いなど、こういうところに住んでいくと本当に面白いことがあるな、仕事にもつながるなど、こういう要素がやっぱり人を惹きつけると思うので、こういう施設をつくったからいいのだとか、こういう研究をしていると言うところ、それをまちづくりにどう生かしていくかということも、どんどん研究してそれを発信もしていくことを、セットでやっていかなければならないと思っています。

◎奥部会長

ありがとうございます。特に区からご回答は必要ないですね。では他いかがですか。まだご発言いただいている北見委員どうぞ。

◎北見委員

大田区商連の北見でございます。今皆さんがお話しされていることは最もだと思いますし、私は大田区に住んで43年です。私は3代目です。4代目も今大田区にいて、5代目も大田です。大田区育ちというのを、若い時は田舎がないからダメなのだろうといつも思っていました。大田区蒲田には東急線がバラックの時からずっと住んでおります。蒲田のいいところは、非常に皆さんが優しいのです。本当に人とのつながりが多くて、とてもそういう意味では蒲田はいいまち、また大田区全体もいいまちなのですけれども、今皆様のおっしゃったところで言いますと、私は製造業もやっていたし、家電のところもやっていたし、犬伏さんと同じ不動産もやっていたり。

そういうふうなことを考えていくと蒲田のまちで、先ほどお話に合ったワンルーム、今、坪1,300万円ですよ、売り値が1,300万円を買って、一体いくらのワンルームが建つのでしょうか。そう考えてしまうと、おかしなことだなと思います。ワンルーム15万円でないとな採算が取れないです。そんなところに誰が住むでしょうということも一つあつて、考えさせられる今日この頃なのですけれども。

飲み屋さんがやっぱり非常に主電源を持ってらっしゃいました。蒲田の東口も西口も、周りのそれこそ広瀬さんもそうですけれども、飲みに来られる方が多くいらっしゃったり、本当にそういう意

味では蒲田はそういうところもありましたけれども。大田区では大森もそう、蒲田もそう。また少し離れたところもそうですけれども。

皆さんそれぞれ思っていますけれども、商店街のお話をされましたけれど、商店街は本当に後継者不足です。間違いなく今確かに、東京で一番大きい商店街ですから日本で一番大きい商店街だと思いますけれども、そんなことを言われていられる時代ではないです。本当に存続するかしないかという商店街は数多くあります。ですから、そういうところの商店街のことを考えれば、大きいところ、小さいところ、中ぐらいのところと部分で言えば、とっても幅が広いです。そういう意味でもとにかく大田区商連としては中堅どころから困っているところに対して今非常に力を注いでいます。大きいところもそのまま放っておいて大丈夫です、生きていけます。だからその一番苦しいところの部分は今テコ入れしたいなとか、これから頑張らせようというよりも一緒に頑張ろうというところの部分で、今お話をしています。

今の地域のところに一流企業の皆さんが入って、古着の販売だとか古着をつくってそれを売るとか、そういうふうなことをしながら、とにかくリサイクルをしながら、そういった商店街のところに入り込んで、そういうものを置かせていただいてやっていってというところとか、Street Camping と言いまして、商店街の広場を土日封鎖して小学生を遊ばして、一緒に遊んでいこうとか。商店街はもともと店で商売をするだけではなくて、地域のそういったところの部分の包括とは言わないですけれども、やっぱり地域のためにある職業だと私は思います。非常に周りの方と連携を取りながら、ご高齢の方も赤ちゃんも小学生も中学生もみんな一緒になって、商店街を必ず通りますので、そういう部分を大事にしていかなきゃいけないかなと思います。

先ほどデータのことを言われましたけれども、多分大田区は 23 区内で特異体質な場所です。海があります。それから商業の非常に大きいところがいっぱいあります。もともと、先ほど言われたように、ここは中小企業と言いながらも大企業に育っていったところもいっぱいあるのです。ソニーもそう、赤井とか、それからナムコ、中村製作所は小さい時会社が取引していただいていたので、ナムコの自動販売機に 10 円を入れて、ガチャンポンガチャンポンとよく乗っていました、玉川にありました。そういうふうなところとか、セガとかそれこそナルミとか、今名古屋屋に行っちゃいましたけれども、もともとは西六郷です。日活、要するに映画の発祥の地でもあるというところで、大田区はそういう意味の全部、全国のものを全て集約したところが大田区なのですよ、はっきり言って。大田区で統計を取るといって、日に日に変わると思っています。飲み屋さんの数は当然、歌舞伎町よりも大田区の蒲田の方が多いのですから、件数は。

そういう意味ではやはり、皆さん一つ一つを考えていただくと非常にボトムの部分のところの小さいお店がいっぱいある商店街、またまちであるということで、先ほど SDGs のことも委員から言われましたけれども、23 区内で人口は2番目に多いのですから、CO2 もいっぱい出しています。でもそれを何とか下げるといって、今山田部長に頑張っているのですよね。そういうふうなところの部分で言えば、やっぱり一つ一つ大田区は何かを抑えていくというよりも、全体的なマクロとミクロの世界のところを融合させながら動いていかないと、何かをする・何かをやるとか言うのではなくて、全体的なものを見ながら、今この時期、今の世代に合わせて、今何が一番必要だということをポイント・ポイントで選びながら、いろんなことをしていくようにして、また先ほど部会長から言われましたように、ときたま、短期でもう1回見直すということも大田区は特に必要

になるかなと思いますし、商業といったところの部分も全部の抱き合わせ、これから港湾のところ
で世界的に見て大きいクイーン・エリザベス2が、もしかしたら平和島の向こうの京浜島にドックと
して着くかもしれない。そういう意味では非常に夢のある区だと思います。そういうことを考えて、
実は私の親戚も空港に勤めていますけれど、26歳の女の子、この夏の給料はボーナスで120万
です。それだけもらっているのですよ。大田区でそれだけもらっている企業はそうはないです。

◎奥部会長

そろそろ話をまとめていただけますか。

◎北見委員

ごめんなさい、いろいろ言わせていただきましたけれども、とにかく多岐多様にあるので、一つ
一つポイントで絞るのがなかなか難しいですけれども、一つ一つを皆さんと一緒に考えていき
たいということです。話が長くなりまして申し訳ありません。

◎奥部会長

すみません、次の議題もありますから急がせてしまいました。広瀬委員よろしいですか。

◎広瀬委員

なんかうまく言えないのですけれど、固有名詞が出てきたら、これ録音されていますよね。あと
で修正しておいてください。

いろいろ考えているのですけれど、うまくなかなかまとまらない中で一つだけお願いしたいな
と思うところがありまして。それは産業に結びついてくるかどうかわからないのですけれど、早いところ
蒲蒲線をつくってほしいと。それはどんな意味かという、大田区考える時に、先ほどの方に一
部意見が出ていましたように、縦の線路はJRが通っています。横が分断されているのですよね。
京急の向かい側の臨海部分、手前方の蒲田などとの行き来ができない。せっかくいいところにあ
る羽田空港を利用できない。我々からすると羽田イノベーションシティをつくっていただいて、い
ろいろな商売に結びつくかと思うと、やっぱり行くまでがとても不便すぎて、なかなかそちらの方へ
行けない。電車はもちろんですけれど、車も最近流れるようになったのですけれど、大鳥居の
ところでしたか1車線2車線で、とてもストレートにうまくいけない。そういうことがあるので、そこら
辺を通してもらえないかなと。そうすれば産業も意識ができると同時に人の流れも出てきますし、そ
んなことで観光その他にも結びついていくのではないかなと思っております。

我々のところはやっぱり不便なところがあるので、島しょ部、京浜島、城南島は工業連合会を抱
えていますので、そちらへのアクセスがうまくいくといいなと考えております。そこに行くまでに
やっぱり大変ですし。

あと子育て世代のいろいろなことを考えているのですけれど、我々のところも人工地がどんど
んマンションになって、そこら辺を止めていただかないと工業自体が戻って来られないというこ
と、工業とか会社とかそういうふうなことであればグリーンな敷地もできますけれど、マンションに
なってしまうとそういうことはあまりないということを申したいなと思います。

◎奥部会長

申し訳ございません。限られた時間の中で皆さんにご発言いただきまして。一通り全員からご意見を頂戴したかったものですから。どうもありがとうございました。様々なご意見を出していただきまして、事務局ではまた次回に向けて整理をしていただければと思いますけれども、追加でデータを示していただけないかといったようなご要望もございましたので、また次回に向けて事務局で整理をお願いいたします。

では他によろしければ次の議題に移らせていただきます。議題は2になりますけれども、現基本構想の振り返りについてということで、こちらまず事務局から資料に基づいて説明をお願いいたします。

議題（2）重要となる施策やその先の将来像について

◎野村課長

それでは事務局より議題2に関する資料について説明させていただきます。資料2をご覧ください。本議題では議題1の強みを伸ばし、また課題を解決していくために重要となる施策とは何か。そしてその施策を進めることでどんな将来の姿が実現できるのか、という点についてご検討いただきますが、先日の第1回審議会で、複数の委員の方から、今後の方向性を検討するにあたっては、現構想の評価や振り返りも重要であるというご意見がございました。そこで施策をご検討いただくにあたりまして、こちら事務局資料の2ページ以降でまず事務局から現構想の振り返りに関する説明をさせていただきます。

では資料2の3ページをご覧ください。こちらは先日の審議会でもご説明させていただきました、現構想の主要な部分の体系図です。

4ページでは参考として産業・環境に特に関連の深い個別目標等を色分けしております。

続いて資料6ページでは、現構想の計画期間等を示していますが、基本構想そのものには明確な数値目標が設定されていないため、構想の個別目標に紐付く形で策定されている基本計画との評価を通じて、現構想の振り返りを行っております。

もっとも資料にも記載されていますとおり、現構想下では左側の「おおた未来プラン10年」という基本計画が存在した期間と、基本計画ではなくコロナ対応の緊急プログラム等によって区政を運営してきた期間、「新おおた重点プログラム」と記載されている右側の期間ですが、この2つに分けられますので、それぞれの期間ごとに振り返りを行っております。

まず前半の基本計画が存在した期間についてですが、「おおた未来プラン10年」の基本計画が完了した翌年に、新たな基本計画を策定するための懇談会を設置し、その懇談会の中で達成の評価を行っております。資料の左下に記載されているように、こちらの中で達成度評価を行いました。

この達成度評価は厳密には基本構想の評価ではなく、あくまで基本計画の各施策に対する評価なのですが、今示しております資料の9～11ページ、この3枚をご覧くださいとわかりますように、各施策は構想の基本目標及び個別目標にしっかりぶら下がる形で位置づけられておりますの

で、この施策の評価をもって基本構想の振り返りの参考とすることができます。

また資料 12～18 ページをご覧くださいなのですが、この最初の 10 年の基本計画の際には、モノサシ指標という形で施策ごとにこういった目標値が設定されておりました。

このモノサシ資料の達成度に加え、各施策における取組の主な成果や課題などを考慮しまして、施策ごとに総合評価を行ったものが、この懇談会の評価としてこちらを示したものが 12 ページ以降の資料となります。

こちら 19 ページをご覧くださいますと、左上に記載しておりますが、総合評価では「施策の目指す姿をおおむね達成」したものを A、「施策の目指す姿に相当程度進展あり」を B、「目指す姿に大きな進展がない」ものを C として評価を行い、資料上段の右側に記載がありますように、施策ごとにこの A の数、B の数、C の数というふうに振り分けております。

またそれらは個別目標や基本目標に沿った形で整理しておりますので、A の割合をもって、各基本目標・個別目標の振り返りに、一定程度活用することが可能な、そういった振り返りとなっております。

こちらが今示したのは基本目標1ですが、本部会のうち産業という分野に特に関連が深い個別目標は、資料の 20 ページに記載のある、基本目標2のうちの個別目標 2-3 です。こちらが産業に関わりの深い個別目標となっているのですが、A の割合は 25% となっております。一方で環境、こちらに最も関連が深い個別目標は 21 ページに記載のある個別目標 3-2、こちらとなっておりますが、こちらの A の割合は 33% という結果となっております。

なお、今説明させていただきました資料 12 ページから 21 ページに記載のある振り返りの内容は、いずれも令和元年 11 月の基本計画策定懇談会で報告のあった、達成度評価報告の資料の抜粋となっております。

達成度評価報告書は本日の参考資料としても添付しておりますが、懇談会後に 100 ページ強の冊子として取りまとめ、公表済みの資料でありますので、本日は詳細についての説明は省略させていただきます。のちほどまたこちらの後半部分をまとめた形でお示しさせていただきますので、まず続きまして今度は後半の部分、基本計画が存在しない期間の振り返りについて説明させていただきますので、資料 23 ページをご覧ください。

基本計画が存在しない期間につきましては、当初は新たな基本計画が策定されるまでのつなぎの計画として「おおた重点プログラム」を策定しておりましたが、その後新型コロナウイルス感染症の流行により、新たな基本計画の策定が延期となりまして、コロナ等への対応を主な内容とした緊急プログラムである「新おおた重点プログラム」を策定いたしました。

こちらの「新おおた重点プログラム」の全体像につきましては資料 24 ページで示しております。左側に将来像、基本目標、個別目標とございますが、現構想の基本目標や個別目標にぶら下がる形で、各施策が位置づけられております。

資料 25 ページでは産業・環境部会に特に関連の強い個別目標を色分けしてあります。特に本部会と関連の強いものとしましては、産業の本丸の個別目標である、個別目標 2-3、また環境の 3-2 などがございます。

資料 26～33 ページでは、先ほど色分けしました施策の柱を記載した上で、さらにその施策のうち本部会と関係のある事業を色分けしております。事業の後には括弧書きで令和5年度の主な

取組を例示列挙しておりますので、直近の大田区の主な施策を確認される際にご活用ください。

33 ページまでで「新おおた重点プログラム」に掲載のある取組について紹介させていただきましたが、こちらはコロナ等を踏まえた緊急計画として策定したため、目標値の設定などを行っておりません。

そのため先ほどの「おおた未来プラン」のように進捗に応じた A、B、C という評価が難しいのですが、この点の振り返りにつきましては、先日の第1回基本構想審議会でも紹介させていただきました、新たな基本構想の策定に向けたアンケート、こちらの結果を活用した形で振り返りを行っております。詳細について説明いたしますので資料 35 ページをご覧ください。

まずアンケートの概要についてですが「基本構想の策定に向けて広く区民の皆様のご意見を伺う」という目的のもと、まずこちらから提示した 30 個のまちの姿について今の大田区が「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」の5択で聞いております。

その後同じ 30 個のまちの姿について未来、つまりは基本構想でめざす将来にこんなまちになってほしいかということ聞きまして、最後に自由記述で意見を伺うという形になっております。こちらのアンケートにつきましては7月 14 日から開始しておりますが、特に7月 14 日から7月 20 日にかけては区立の小中学校を通じて、小学5・6年生の全児童及び中学1～3年生の全生徒にアンケートをお願いしまして、またそれと合わせて区立の全小中学生の保護者にもアンケートをお願いしましたので、資料に 35 ページの一番下にありますが、7月 23 日までに計 15,658 件の回答が集まっております。アンケート自体は9月 11 日まで引き続き実施しますが、現時点で 15,000 票という分析には十分な数が集まっていることから、次のページ以降で現時点のアンケート結果を活用した振り返り手法について説明させていただきます。

資料の 36 ページ及び 37 ページをご覧ください。こちらはアンケートのうち現在のまちの姿について「あてはまる」「ややあてはまる」の2つの回答の合計割合が多かったまちの姿を、2枚のスライドにわたって多い順に並べたものとなります。

この結果からは、一番上「交通の利便性がよいまち」と感じている人が 81.4%と最も大きく、逆に 37 ページの一番下にあります「犯罪や交通事故が少ないまち」と感じている人は 47.0%と最も少ない結果となっています。

この結果をどのように活用するかと言いますと、資料 38 ページに記載がありますとおり、このアンケートの設計段階においてこの 30 個のまちの姿を設定する際に、それぞれが「新おおた重点プログラム」のどの施策に紐付くかを整理し、かつ「新おおた重点プログラム」の施策の主要な要素を網羅的に抑えたまちの姿になるように設定いたしました。

アンケートのまちの姿につきましては資料 39 ページに記載があります「新おおた重点プログラム」の一番右側の施策体系に、全て紐付けることができる。そういった形になっておりまして、各施策はそれぞれ構想の基本目標・個別目標に対応していることから、施策を介して構想と紐付けて振り返ることが可能となっております。

この整理に従いまして、まちの姿を基本目標と個別目標に分類したものが資料の 40、41、42 ページとなります。この分類に各アンケート結果を落とし込んだものが、43～45 ページとなっております。

精緻に目標値等を分析した振り返りではないものの、区民が現在の大田区をどのように捉えているかということは、現構想を振り返る上での一定の判断材料になるものと考えております。

また、アンケートのまちの姿は単純に平均値を取ればよいというものではないことは重々承知しておりますが、短時間で目標ごとのアンケート結果の傾向を把握できるよう、個別目標ごとに、一番右側にそれぞれのアンケートの平均値も参考に掲載しております。以上のように基本構想の存在した期間と存在しなかった期間に分けて振り返りを行いました。左側の前半部分と右側の後半部分ですね、資料 47 ページのこの2つを一元化したものを、資料 48 ページ以降で個別目標ごとに記載しております。

資料 48 ページをご覧ください。こちらは個別目標 1-1 に関する振り返りですが個別目標は全部で9つありますので同様のスライドが9枚あります。まず 1-1 の説明をさせていただきますと、資料の上段ではおおた未来プランの達成評価報告のうち、当該個別目標に関する施策の A 評価の割合を記載しております。

こちらの個別目標 1-1 では、上段の左側に記載がありますとおり、A は 75% となっております。また資料下段では、先ほど説明したアンケートの結果を示しております。例えば資料に記載のある個別目標 1-1 では、区民のアンケート結果の平均は 70.7% となっております。それぞれのアンケートの内訳は 72.3%、70.6%、69.2% とありますので、これを単純に平均したものとなります。

こういった形で9つ全ての個別目標についてまとめておりますが、本部会と特に関連の強い個別目標について見てみますと、まず資料 53 ページに記載があります。

産業の個別目標 2-3 ですが、上段の A の割合は 25%、下段の区民のアンケートの平均は 59.5% と、先ほどの 1-1 に比べてやや低い結果となっております。ただアンケートのうち、下段の一番上を見ていただきますと、産業・経済に活力あるまちという回答は 66.1% と比較的高い結果となっております。次に資料の 55 ページに記載になります。環境の目標 3-2 ですが上段の A の割合は約 33% 下段のアンケートの平均は 55.9% となっております。30 個のまちの姿で全ての施策を網羅する必要がございましたので、個別目標によっては少しアンケートの数が少ないものもございます。

こうした結果を全て一元化したものが資料 57 ページとなっております。

この暫定のアンケート結果を当てはめて解釈するというのは、やや強引な手法かもしれませんが、構想前半のおおた未来プランの達成度、こちらの評価手法は区が設定した目標値を判断材料の一つとして、区の判断により総合判定を行うという、行政視点からの振り返りであるのに対しまして、後半のアンケートを活用した振り返りは、区民がどのように感じているかという区民視点からの振り返りであるため、トータルで見た場合にバランスがいい振り返りとなっている。そういった見方もできるかと考えております。

また、これらに加えて、15 年間の変化についてまとめたデータブックも、振り返りの一助になるかと思っておりますので、適宜ご活用ください。

なお、アンケート結果の速報値につきましては、参考として資料 58 ページ以降に記載しております。詳細については必要に応じてご確認いただきたいのですが、アンケートについて1点だけ注意事項がございますので、資料 59 ページをご覧ください。

アンケートの概要等は先ほど説明させていただいたとおりですが、一番下にございます回答数、

こちらの15,658件のうち4,016件を占める大人の意見のうち、3,418件、大部分は区立小・中学校を通じて回答をお願いした、保護者の回答です。残りの598件、約600件は、その他ホームページ等からご回答いただいた一般の大人の方の回答となっております。このように保護者の方が圧倒的に多い割合となっているのですが、このような内訳の差が生じている原因として、7月14日から7月20日という夏休み前に区立小・中学校を通じて保護者の皆様に回答をお願いしたため、保護者の回答率が非常に高くなっていることが1点ございます。もう一つはデータブックの更新が7月25日でありまして、出張所や各種区立施設へのアンケートチラシの配布はデータブックとセットで開始予定であったため、実は本集計の7月23日時点では、ホームページ上で閲覧はできるものの、データブック、チラシ等につきましては、各場所での区民の皆様への積極的な呼びかけができていないと言いつい難い状況となっております。そのためこのような結果が生じているのですが、アンケートは9月11日まで実施しますので、今後様々な区の施設におけるアンケート協力をお願い、また区のイベントや来客の多い商業施設に出向いてのアンケートへの呼びかけなどを実施してまいりますので、最終的には保護者以外の方の意見も多く集まり、バランスの取れた大人の意見となる、そういった形で考えております。

現時点の速報値としては、大人の意見はやや結果が偏っておりまして、そういう意味では、先ほどの振り返りもあくまで暫定の結果であるということをご承知おきください。また最初の結果につきましては審議会の2回目までにお示しさせていただきます。

最後に資料60ページでは、上段左側で大人の回答につきまして今の大田区のまちの姿のうち「あてはまる」「ややあてはまる」の合計割合が多かったトップ3の姿を示しております。将来のまちの姿で回答が多かったトップ3を右側で示しておりますので、今はこちらの資料ですと、大人が思う今の大田区のイメージが左上で、大人が望む将来のまちの姿が右上で、同じような形で下にこどもの今の大田区のイメージと将来の大田区の姿となっております。アンケート結果が集まりましたら、こういった形でしっかり比較もしながらお示させていただく予定ではございますが、こちらにつきましては第2回の部会で自由記述意見と合わせまして、改めて報告させていただきます。

本日は第1回の審議会でのご意見を踏まえ、現構想の振り返りについて説明させていただきましたが、意見交換では振り返りそのものの妥当性ではなく、それらはあくまで一参考情報とした上で、今後大田区にとって、どんな施策が重要であり、施策を進めることでどんな将来の姿が実現できるのかという点について、ご意見をいただきたいと考えております。

事務局が作成しました振り返り資料に記載のある、既存の計画の枠組みを、あまりにも意識してしまいますと、どうしても発想がこの中に捉えられてしまい、非常に狭い範囲の中での意見交換となってしまいます。そういったリスクもあるかと思っております。

10年20年先の将来像の検討を進めていくためには、既存の計画の枠組みにとらわれることなく、大田区にとってどんな将来像をめざすべきか、どんな将来像であればみんなが希望をいただけるか。そういった観点からご自由にご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。事務局からは以上です。

◎奥部会長

ご説明ありがとうございました。ただいま事務局から説明いただきました、振り返りに関わる内

容ですとか、先ほど議題1でいただいたご意見も踏まえまして、今後特に力を入れていくべきと思われる施策ですとか、その施策の先にあるめざすべき将来像などについて、ご意見をいただきたいということでございます。いかがでしょうか。どなたでも構いません。手を挙げていらっしゃる方、お名前をお願いいたします。

◎下村委員

現在は具体的な施策等について意見を述べさせていただくその前の段階なのかと思うのですが、今回、評価の振り返りが重要であるというお話が出ています。逆にその評価の振り返りをするにあたって、必要と思われる事項を3点ほど提案させていただきたいと思います。

まず1つは、今回大変に膨大なデータの分析をされていて、非常に驚いているのですが、一方で、個別目標に対する各施策の効果を図るためのモノサシ、指標というものを定義されていると考えます。これがいわゆるKPIに相当すると思うのですが、これをどう決められたのかという根拠を合わせて見せていただきたいと思います。

一例として、2-2として国際交流拠点都市をめざす、世界の扉を開く、世界に羽ばたくまちをつくるなどの目標が挙げられているのですが、これに対応するモノサシ、指標として「空港が区民にとって身近になる」という区民の意識を指標として定められています。この時、空港が区民にとって身近になることと、国際交流拠点の都市となることとの間に、どういう論理的な因果関係を設定されているのかということ、今後の改善を考えていく上で極めて重要だと思っておりますので、その点を可能な限り示していただくべきではないかなと思いました。

2点目としては、個別目標に対してAからCの総合評価をされているのですが、その前ですと各施策に対する目標値に対する達成度がパーセンテージで示されています。この各施策に対する評価とA～Cの評価の関係はどうなっているのかということをご提示いただきたいと思います。

それから3点目としてアンケート結果について、こちらも非常に膨大な労力を払われていると思ったのですが、一方で気になる傾向もいくつか見えています。

例えば、犯罪や交通事故が少ないまちというものに対して、「あまりあてはまらない」と思われる人が50%を超えているという結果が出ていますが、どういう具体的な事象に紐づいて「あてはまらない」と言われているのか。そこが非常に重要で、そこが見えてこないという対策・施策を打つことが適切なのかという議論がなかなか難しいと思います。

こういう理屈の議論はなかなか難しいかもしれませんが、この辺りは、気になるアンケート項目に関してだけでも、具体的な事象との紐付けということを併せてご検討いただけないかと思えます。以上3点ご提案申し上げます。

◎奥部会長

ただいまのご要望について事務局からご回答ございますか、お願いします。

◎野村課長

ご意見ありがとうございました。まず1点目のKPIの設定理由は、まさにこの参考資料で付けさせていただきます。こちらは当時の懇談会総括でも同様の

意見が述べられておりました、今示させていただきます。

先ほどご意見をいただきました KPI の設定理由がどういうものか、評価 KPI の達成と ABC の因果関係でしたが、ここの振り返りを行った際にも、少し指標の結果と判定がリンクしてないように見受けられたものがあるというふうにありますので、これは前に行った振り返りではありますが、一旦ここでこういったご意見をいただいて公表しているということから、少しこれが全て完全に説明できるものではなく、どうしても主観が入った、そういった振り返りだったかと判断してございます。

また KPI につきましても「(2)適切な指標の設定」、今スライドに示しておりますが、部局によって目標値の立て方に幅があると感じるということで、なかなかこちらも、一定の考えに基づいて立てられたかという少しバラバラであったかなど。そういった結果となっているかと思っておりますので、今、下村委員がおっしゃったような、精緻なフラットで振り返りというのは難しい状況にあるかと思っております。

またその中でもやはりこれだけの意見をいただいているということは、次の新しい構想や基本計画では、こういった部局に任せてそれぞれバラバラに立ててもらうのではなく、やはり一定の統一的な、こういった基準で立てています、振り返りの評価の時も、審議会でもしっかり、どうやって振り返るかを検討すべきと言われましたので、行き当たりばったりではなく、最初からこういうことで振り返るのだと、そういったものを整理しながら進めていきたいと考えております。基本構想もですし、翌年度に控えた基本計画も含めてしっかり進めてまいりたいと思っております。

アンケートはどういった具体的な事象と紐付いてこの結果が出ているかについてですが、やはり今アンケートを直接リンクする形では、先ほどお示しましたようにアンケートの設計が A4 の両面ぐらいで聞いているものですので、現状ではそこまでの数値がわからないというのが正直なところです。おっしゃるとおり、より精緻に聞く方がいろいろな分析ができたということは我々も十分承知しているのですが、やはりなるべく少しでも多くの区民の意見をいただく、そういった観点から極力 A4 両面に収まるような分量に減らし、その結果必要最小限のことに絞った。そういった背景もございまして。ただ先生がおっしゃるとおり、この原因を深掘りしていくことは重要かと思っておりますし、今後また基本計画等の施策を進めていく上でも重要かと思っておりますので、この他にも企画経営部でやっているアンケートがいくつかございまして、しっかりこういったものを今後深掘りしていけるように進めてまいります。事務局からは以上です。

◎奥部会長

下村委員よろしいでしょうか。

◎下村委員

はい、納得いたしました。

◎奥部会長

ありがとうございます。どなたか手を挙げていらっしゃいますか。

◎犬伏委員

犬伏です。今の下村先生の意見に、諸手を挙げて賛成するところでありまして、今事務局から行き当たりばったりの数字ではなくて、とありましたが、目標値一覧、モノサシ指標を見ていますと、おた未来プランとあまり関係ないのでは、たまたまなっただけでは、という数字がずっと羅列されておまして。これをもってモノサシ指標にするのはどうなのだろうなあと。たまたま世の中はそうだったのだし、何かをやった結果こうなったという具体的な証明ができないものを、モノサシに使っているというところ自体が、大変失礼な言い方をすると、行き当たりばったりだなと、強く感じております。

それと今回のアンケートは小・中学生が 11,642 件、これは素晴らしいですね。大田区の小・中学生が多分4万人ぐらいだと思うのですが、そのうち 25%が回答してくるというのは、こどもたちの区政に対する関心が非常に高いと。

反面、大人は同数もしくはご夫婦だとすると倍の保護者がいるのにも関わらず、1割ぐらいしか回答してこないというのは、こんなものだろうな、大人の関心は、と。やっぱりアンケートは出し方によって、「大田区は犯罪が多いと思うか」と聞いたら大体一般の区民は数字に関係なく「そうだよね、多いよね」と勘違いします。例えば大田区民に対して「区議会議員って多いと思いますか」と聞くと、ほぼ 100%が多いと思っただけです。「区議会議員は何名いるのですか」と聞くと、知らない。大体こんなものです。9割ぐらいそんなところですよ。

つまりマスコミが「地方議員って多いよね」とインプットしているものから「そうだよね」と答えてしまうというのが、大体のアンケートですから。大人のアンケート評価は、僕はあまり信用しないのですが、こどもたちのこの評価はすごいですね。こどもたちが素直に育ってくれるとありがたいのですけれど。

それともう一つは、通常こういうアンケート評価というのは、区政が大好きな町会を通じて、すでに若干第一線から退いた方々が、何枚集めておかなきゃいけないと言って、アンケートを出してくれることが非常に多いのです。ところが今回、インターネットを使っていますので、そういう方がほとんどいないというので、これも斬新だなと。やっぱり現役世代の意見を区政に反映しておかなきゃいけないのに、過去の現役の方たちの意見を区政は非常に重んじているというところに、今までのアンケートの失敗と言ったら失礼ですけど、敗因があるかなと。この数を保護者に限らずもっとより広範な、今現役で働いている方たち、区政の働きを最も必要としている方たちから、どうやって意見を引き出すかということが大変肝要だと思うので、さらにあと 1ヶ月ちょっとありますので、工夫を広げていただきたいなと思っております。振り返りに対しての感想です。

◎齋藤部長

事務局の齋藤です。

様々な意見ありがとうございました。モノサシ指標についてなのですが、この前の基本構想・基本計画をつくった時にも、ご指摘のように果たしてこのモノサシがいいのかということはかなり議論があったのです。それで例えば、蒲田・大森エリアまちづくりの指標として駅の乗降客数というのがあって、それが多いか少ないかというので評価するのは、それってどんなのという議論が中々あったのですよ。

それから各部局ごとにバラバラに出してきたものを、企画経営部でホチキス止めしたということがありましたので、そうではなくて、今度は基本構想・基本計画をつくる時には、少なくともこの部会単位ごとの系統だったモノサシを示すべきだと思っていて。それはこういう原因があるからこのモノサシだということが必要だと思っています。

そこがありますので、様々なご指摘があったように、過去の「このモノサシがどうだった」という分析にあまりエネルギーを使うよりは、今後これをよりよいものにしていくというところに、我々としてエネルギーを割きたい。今度モノサシをつくる時には、この辺を考えてやっていきたいと思えますので、どうぞご理解よろしくお願い申し上げます。

◎奥部会長

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。手を挙げていらっしゃるの中村委員ですね。

◎中村委員

公募区民の中村です。発言許可いただけますでしょうか。よろしくお願いします。

今のアンケート結果の速報を見て、こんな感じなのだという、おおよその傾向はつかめました、ありがとうございます。

今犬伏委員からもありましたとおり、アンケートは置かれている立場、生活環境や属性によって結果が大きく変わってくると思われますので、この前の審議会の時にもお伝えしたのですけれども、あらゆる立場の人から声にならない声も拾い上げるぐらいの覚悟で、本当にいろんな区民の意見を反映させてほしいなと思っています。

この速報を見てなのですけれども、今の大田区はどんなまちだと思いますか、という問いに対して、大体上位に上がってきているのは交通の便がいいとか、ハード面での設備が大変整っているということだと思います。他方、下位15位の中に多く入っているのは、例えばそのマナーの件とか治安の件とか障害者に優しいまちであるとか、ハードの面というよりは、人々の意識とか認識、いわゆるソフト面が大きく関係しているのだと思います。多少設備なり制度なりというのは整っていなかったとしても、人々の支え合い・思いやり・譲り合いは、多少のことは乗り越えていけるような部分もまだまだきつとあるのだと信じているので、その辺の啓蒙活動なりというのは、時間もかかるしすごく難しいと思うのですけれども、その辺をクリアしていくことが本当に安心・安全で住みよい大田区、そういう将来のまちづくりにつながっていくのではないかなと私は感じています。

◎奥部会長

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

◎湯本委員

湯本です、よろしくお願いいたします。過去を振り返ってみると、個別目標で書かれているところに関しては、この書かれた内容は大田区政の方向性としては具体化ができているものもいくつかあるなというところがあります。基本構想の中で、どこまで何を定めるのかということにも関わる話なのですが、空港とか自然環境とかかなり具体的な政策がいくつか切り取られて、そ

のことが特化した目標になっているのですよね。一体、基本構想というのは、何を定めたいのかなというところについて、勝手に僕らが考えればいいのかなども思うのだけれども、焦点が広すぎて、どこに絞って何を語ればいいのか、なかなか判断が付けづらいのですけれど、これはどう考えたらよろしいでしょうか。

◎事務局

奥先生、事務局から回答でよろしいでしょうか。

◎奥部会長

お願いします。

◎事務局

湯本委員がおっしゃるとおり、個別目標について、前回はおそらく、いわゆる政策や計画の柱と呼ばれるところまで決めておりましたので、非常に細かいところまで規定している部分があるかと思えます。今湯本委員が基本構想を見ながらご発言されていらっしゃいましたので、現在の大田区の基本目標及び個別目標を見ながら「どのレベルで」と判断してしまうと、非常に難しいかと思うのですが、第1回審議会では、個別目標等ものすごく細かいものはできれば基本計画に、とありましたので、一旦施策レベルでのご検討は細かい部分までご発言いただいても問題ないと考えているのですが、最後最終のアウトプットに落とし込む形としましては今の大田区でいう基本目標レベル。これに、やはり基本目標だけで終わってしまうと抽象的すぎるかと思えますので、基本目標にプラスし、先ほどの明確な個別目標という形ではなくて、基本目標をもう少し噛み砕いてイメージできるような例示のようなもの、そういった形でできれば今事務局では第1回目の審議会を受けて考えてございます。この意見をまた2回目の部会では大体これぐらいのレベル感で取りまとめてくださいという、少し雛形のフォーマットのようなものをお示しさせていただきますので、最後そこに落とし込んでいただきまして、3つの部会を合わせて、最終的には細かすぎないレベルの基本目標プラスアルファぐらいに落とし込めればというのが現在事務局では考えてございます。

◎湯本委員

20年前につくった時私はこれに参加していないのですけれども、多分その時にいたらなぜ空港だけなのかとか、殊更なぜ自然環境とかだけに焦点を当てるのかということが、とっても言いたくなってしまうと思うのですよね。もっと言うなら社会の継続性を考えて、この頃からやるべきことがあったのではないと思うような、大変に申し訳ないけれど中身に感じてしまうのと、切り取っているテーマに偏りがありすぎて。広いものを書くのだけれど、その中にふと個別の細かい話が出てきてしまっているから、それを施策の中に反映して区民の幸せを結果として今このように作り出したのかと言われると、腑に落ちない、すっきりしないというのがこの過去のものを見た上で、今私が抱えている感想です。

もう一つは視点が大きすぎて環境に配慮したり CO₂とは書いてないから自然環境とかそういうことを書いてあるのですが、区民レベルの努力を積み上げてやれることもあるのだけれど、それ

をやったことが地球全体にどうこうとか、気温を何度下げるとかに対して、どう結びつくの、これ区政で取り扱える範疇を超えていませんか、みたいなことも書かれているように思えるので、過去の振り返りとしてはもう少しきちんと的を絞って、今回つくる基本構想が、きちんと区政レベルで達成ができるような、そういうものにブラッシュアップをしていく必要があるのではないかと感じました。以上です。

◎奥部会長

ありがとうございます。

◎犬伏委員

残り時間 15 分になってしまっただけで率直に感じるのですが、もう過去の振り返りはいいのではないかと。今後の課題をここで過去の振り返りから課題にもっていかなければいけないのに、残り 15 分になってしまった。過去を振り返りすぎだろうと思うのですが。

さっき申し上げたのですが、今大田区の中小企業、商工業者が抱えているものすごく大きな問題が後継者不足であります。匠の技術を持っていながら後継者がいないものから、廃業せざるを得ない。それから区内の飲食店で大変おいしい料理を提供していただいているのですが、後継者がいないので廃業せざるを得ない。というような商工業者が大変多いわけです。

東京商工会議所が月報を送ってくる中に「後継者の相談に乗りますよ。」とある。きらぼし銀行が羽田イノベーションシティに後継者、事業承継専門のセクションを置いたり、民間ではそういうことをやっているわけですが、経営者は大体人を疑うのが非常に得意であります。また騙されるのではないかなど。そうすると M&A とか事業承継というと、会社を乗っ取られちゃうのではと、そもそもそこから入っていかない。結果気がついてみたらもう後継者に渡すような技術も陳腐化してしまって廃業せざるを得ないとなります。やはりぜひ今回の新たな構想の中にも、中小企業の活性化という意味で、大田区で事業をやっていると事業承継も非常にスムーズにいく。それは大田区と大田区産業振興協会がバックアップをしてくれて安心して渡せるのだと、小さな話題になってしまうのだけれど、安心して事業承継ができれば経営者は力ができる、店主が頑張っていけるといって、そういう視点もぜひ取り入れていただければと感じています。

代表質問から一般質問になってしまいましたが、意見です。

◎奥部会長

ありがとうございます。今日出していただきました振り返り関連のデータは、あくまでも参考にしていただいて、今後に向けてどういった将来像を我々は描くべきなのか、どういう方向性を模索すべきなのかといった将来に向けてのご意見を頂戴したいというのは、後半パートの趣旨だったわけですが。

そういう意味で私からも1点、お話しさせていただきたいのは、環境審議会の会長もさせていただいておまして、環境保全政策を専門にしているわけですが、今環境アクションプランにおきましてはもう 2050 年に向けてのビジョンというものを明確に示しているところです。「大田区環境ビジョン 2050」ということで3つのゼロをめざすのだと。それを通じて持続可能な環境先進都市

おおたを実現するのだというふうとうたっております。3つのゼロというのは温室効果ガス実質ゼロ、プラスチックごみゼロ、食品ロスも実質ゼロという、これが3つのゼロです。その方向性は2050年に向けてやっていくのだということが前提になっていますので、2040年頃はその途中の通過点として、環境先進都市としての今のビジョンというのはそのままうまく基本構想の中にも落とし込んでいくということが必要かなと思っております。

あと基本構想レベルにどのように表現するかという話ですけれども、施策や個別目標、それから基本目標と上にいくほど抽象的になっていきますが、現時点においてはそれにとらわれることなく思うところを出していただいて、それが非常に個別の施策レベルの話でも全く構いませんので、出していただければそれをどう基本構想の中で表現していくのか、どのように括っていくのかというのとはあとで作業していけばいい話ですので。そのようなご理解でご意見いただければと思います。

他はいかがでしょうか。だんだん時間が迫ってまいりまして、あと5分ほどでしょうかね。ご意見いただければと思いますが、いかがですか。

◎下村委員

過去に過度にとらわれるべきではないという考え方には、私も納得したところではあるのですが、かといってフルスクラッチでゼロからつくるというのも当然リスクだと思います。少々観念的なことを申し上げますが、失敗学と言われる分野があります。それは新しいものをつくる時に過去の事例を参照するという我々が往々に行うことの重要性を主張しているものなのですが、むしろ成功事例よりも失敗事例の方が良いものをつくるには非常に重要な示唆を与えるということに、学問として取り組んでいる人たちがいます。まさにそういう観点で前回の何がよくなかったのか、どうしてそういう論理的な破綻を招いてしまったのかということを踏まえて、新しい施策設計につなげていくことがよいのではないかなと思いました。

◎奥部会長

はい、おっしゃるとおりだと思います。

◎齋藤部長

部会長、事務局齋藤です。下村委員、ご意見ありがとうございました。

我々としても過去の事例を軽視しているわけではなくて、その反省に基づいて新しいものを立案していきたいと考えております。前基本構想が悪いというわけではないのですが、反省点としては理念を中心にすべきだったところをあまりに細かいところまで載せすぎたために、時代の変化についていけなくて、基本構想自体が時代とそぐわなくなってしまうという実態がございます。それからモノサシについても、先ほど申し上げたようにそぐわないところがあったので、そこら辺を整理させていただく中で、新しい基本構想ではやはりどういうまちをつくるのだということを、区民の皆さんにわかっていたいただけるような大きい括りを少し大事にしていって、それ以下の部分については、基本計画につながるように、そんな仕立てにしたいと思っておりますので、そこら辺もつくり方についてはまたご意見いただきながらブラッシュアップしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく

お願い申し上げます。

◎奥部会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

◎湯本委員

そういう観点で言うと、この基本構想に少子高齢化が入っていないのはあり得ない、20 年前に。今の時代、あり得ない。はっきり言わせてもらったらこれではやっぱりダメだと思う。中長期の構想を書くのでしょうか。それはやっぱり反省しなきゃダメなのではないですかと思います、これは意見として。

◎齋藤部長

事務局です。反省しないと言っているわけではなくて反省はさせていただきながら、未来に向かってよりよいものにしていきたいと思えます。

◎奥部会長

ありがとうございます。これは基本構想レベルなので多分議会で承認され、議会でご議論いただいてこれになっていたかと思えます。20 年前そういう共通認識を議会の方も議員の方も持っていたということです。はい、他いかがでしょうか。事務局何かございますか。

それでは皆様いろいろご意見、限られた時間でございましたけれども、いただきましてどうもありがとうございました。

大田区の進むべき方向性と重要となる施策についてということですが、なかなかそこまで今回は議論が十分には深まらなかったと思えます。また次回も引き続きご意見いただければと思います。

事務局におかれましては今回出ました様々なご意見、整理をさせていただきまして必要な情報だとか都市間の比較可能なデータということもご要望いただきましたので、次回に向けての準備を進めていただきますようお願いいたします。他に何かご質問ご意見ありますでしょうか。ないようでしたら本日の議題については終了とさせていただきます、進行を事務局にお返しいたします。

その他（事務連絡）

◎野村課長

奥部会長、ありがとうございました。それでは事務局から今後の予定についてご説明をさせていただきます。資料3をご覧ください。

第2回の専門部会は令和 5 年8月 30 日の 13 時から 15 時までで区役所本庁舎第5・第6委員会室での開催を予定しております。本日の部会でいただいたご意見を事務局でまとめさせていただきますが、なかなか今回全ての議題を消化できたというふうに考えてございませんので、第2回の専門部会の前半パートではしっかり1回目を踏まえて改めてというところではございましたので、再度今回出せなかったデータ等もお示させていただきながら、改めてどういった将来像を目

指していくべきか、そういったことについてご検討いただければと考えております。

またアンケートの結果につきましても、自由記述と合わせてより詳細に結果をお示しさせていただく予定ですので、そういったものも合わせながら将来像の検討を進めていただければと思います。

最後、部会としての取りまとめですが、こちらにつきましても大体どのようなレベル感かということが次の議題の際にわかるように、事務局の方でそういったレベル感を示した形で資料をつくってまいります。

最後に、中でも意見がいくつかありましたが、この部会で、前回の現基本構想の際は、3つの部会で、それぞれ1つずつ柱を上げるそういった形で進めていったのですが、この部会ごとに一つの柱を挙げる、そういった形はまだ決めずに進めていきたいと考えておりますので、ここで出た意見を他の部会とも合わせて、最終的には基本目標をいくつの柱にしていくか、そういったものを事務局で横を見渡しながらかつুক্তていきたいと考えておりますので、それにつなげるような形で次回の部会でご検討いただければ幸いです。

その後、全体会である第2回の審議会は、現在令和5年10月の調整中ですのでまた詳細が固まり次第頭に次第改めてご連絡させていただきます。事務局からの今後の説明については以上です。

閉会

それでは以上をもちまして大田区基本構想審議会第1回専門部会(産業・環境)をこれにて終了いたします。委員の皆さん、本日は数々の貴重なご意見ありがとうございました。お疲れ様でした。

以上